6　日本で最高の普及率を誇る沖縄

沖縄では、米国の軍政下にあったころは、石井方式を実践する幼稚園は皆無でした。それが昭和 47 年の本土復帰とともに、またたく間に全県に広がり、現在では、石井方式実施園の割合は、全国 47 都道府県のなかで群を抜いて高いものになっています。

その第一の功労者は、島尻郡に鯉のぼり幼稚園を設立し、自ら理事長となって石井方式を全面的に推し進め、また、県下への普及活動に尽力した井上公志先生でしょう。現在、鯉のぼり幼稚園は、花園幼稚園と名称も変わり、理事長も交替しましたが、その果たした役割りは特筆にあたいします。同じくその当時、井上先生の片腕として活躍した前田和洋先生は、その後、豊見城村にひかり幼児学園を創立し、園長として、現在も沖縄における石井方式実践園の中核的な役割りを果たしております。

ここで、数多い実践園のうちのいくつかを「母と子の新聞」の“素描”から紹介してみましょう。

「まず那覇市には愛心学園（玉村八重子園長）があります。ひじょうに熱心な幼稚園で、園長、職員和気あいあいのうちにも旺盛な意欲をもって実践を深めています。

沖縄市の胡座には、又吉信一先生が開設されたリーダーズ幼児学園があります。ここはアメリカの大学の修士課税を卒業したばかりの又吉先生が、井上公志先生のもとで教育指導に当たっていて、その後独立してつくられた幼稚園です。ところが、又吉先生は不慮の死を遂げてしまい、一時はどうなるかと心配されましたが、今は城間英幸先生が後を継ぎ、その成果は着々と上がりつつあります。

同じく胡座には、ディズニー幼児学園があります。園長は譜久山良子先生です。ここも園長職員一丸となって実践に務めています。

昭和 56 年に初めて参加したものに、読谷村長浜のこばと保育園があります。その年の 5 月、石井先生が訪問した際、盛大に講演会が聞かれました。金城礼子園長の熱誠あふれる教育指導に、大きな成果が見られる日も遠くないと思われます。

那覇と沖縄市の中間にある浦添市には、ひまわり幼稚園（伊波枝美子園長）、平安学園（平安名常吉園長）があります。共に長い実践を積み重ねています。平安学園は、平安名園長が石井方式実践をうたって開設したものです」

最後に登場した平安学園の場合、スタート時から石井方式をかかげて開園した熱心な実践園です。平安名先生によりますと、「自分の子どもに石井方式を試みてその効果を知った」ことが動機となり、大き

な励みになったといいます。

最近では卒園児が通う近隣小学校での評価も高くなり、ある小学校の先生からは「そろそろ私たちのやっていることを考え直す時期に来た」と注目できる発言があったそうで、ますます意を強くしているところです。

沖縄には、このほかに心たくさんの実践園があります。おそらくまだ二十か園以上あります。昭和52年に設立、54年には石井方式を取り入れ、実践を始めた宜野湾市のよつば幼稚園、浦添市の朝日保育園、平和学園など……。また、58年の2月には、前出のひかり幼児学園とディズニー幼児学園が NHK 番組「日本語を決めたのは誰だ」に登場して注目を浴びました。

昭和 58 年の 6 月中旬から、石井先生は、沖縄県下 9 園で公開授業と、講演を行ないましたが、行く先々で大歓迎を受けました。「これも沖縄の皆さんの熱心さの現われです」と石井先生は語っていましたが、その“一幕”を 6 月 23 日付の「沖縄タイムス」から拾ってみましょう。これは中頭郡読谷村のこばと保育園が中央公民館で開催した、石井先生による公開保育と講演の模様です。

「公開保育では、同園の四歳児 36 人が、石井教授のわかりやすい“授業”を受けた。まず演壇上の黒板に書かれた森、猿、熊、狸などの漢字を使って物語を聞かせ、視覚と聴覚によってこれらの漢字を印象づけた。そして物語を聞かせ終えた後、漢字の読み方、記憶力を確めたところ、ほとんどの園児がすらすら答え、出席した父母を感心させた。

公開保育の後、講演が行なわれ、同教授は『私は 15 年前から幼稚園の漢字教育に取り組んできた。脳の成長期にある幼児にとって漢字は決してむずかしいものではなく、むしろひらがなよりずっと覚えやすい。目と耳を使った学習をすれば無理なく頭に入る』と、教え方一つで幼児でも楽に漢字が覚えられることを強調した」

沖縄は、全国レベルでも、いちばん高い普及率を示しています。しかし石井先生は「盛んになった沖縄でも石井方式に疑問を持つ人がまだいますから、今後も機会があれば、多くの人に授業を見てもらい、私の話を聞いていただきたい」と意欲を示しています。

沖縄全県下で幼稚園数は私立が 100 近く、公立は 220 に及び、保育園も、公立が 100 以上、私立が 200 前後あって、今後も漢字学習を普及させる余地はまだまだあるというわけです。